

GRIPS 国内同窓会報

発行日：2019年1月16日 発行者：政策研究大学院大学国内同窓会 発行責任者：名取はにわ

事務局連絡先：〒106-8677 東京都港区六本木7-22-1 TEL 03-6439-6047 E-mail alumni@grips.ac.jp

GRIPS 恩師インタビュー

第1回 吉村 融 政策研究大学院大学名誉学長

(聞き手) 名取はにわ GRIPS国内同窓会会長

第1回は、GRIPSの発展の中で常に中心の役割を果たされてきた吉村 融名誉学長です。聞き役は、国内同窓会の名取会長。お話は、吉村 融著『政策研究の地平へ GRIPSの挑戦』(2008年6月 東洋経済リサーチセンター発行)を枕に進められました。(本文中は「御本」と省略。修了生の皆様、一度は読んでいただきたい本です！)

吉村 融

Toru Yoshimura

昭和5年福井県生まれ。昭和27年東京大学文学部哲学科(旧制)卒業、東京大学文学部助手、埼玉大学教養学部助教授を経て、昭和47年埼玉大学教授に就任、昭和48年埼玉大学行動科学情報解析センター長、昭和52年埼玉大学大学院政策科学研究科長、さらに、平成6年政策科学教育研究機関(仮称)創設準備室長、平成9年政策研究大学院大学創設準備室長を経て、平成9年政策研究大学院大学初代学長に就任。任期満了に伴い、平成19年同大学理事、平成21年同大学特別参議、平成23年同大学特別参与、平成25年政策研究院創設に伴い、政策研究院参与に就任。同年、永年の功績から、政策研究大学院大学名誉学長の称号が贈られた。平成28年瑞宝重光章受章。



名取 先生は、「山紫水明の地には社会科学は育たない」とおっしゃっていましたが、六本木に校舎を構えるようになったいきさつは？

吉村 「政治力を使っただろう」とよくいわれます。僕も政治家にたくさん知り合いはいたから。だけれども、頼んだ覚えもないし、誰にも世話になっていないんですよ。ここは、昔は歩兵第3連隊の駐屯地。戦後、東大の生産技術研究所と物性研究所ができた。物性研がうちのほうで、生産研が今の国立新美術館になった。国立新美術館構想の所管は文化庁で、美術館に必要な面積以外の残余の土地が、たまたま残っていたんだね。

名取 先生は、お若いときに千葉大学、青山学院大学で講師をされていましたが、そのころ、政策研究大学院大学の発想は、なにかおありでしたか。

吉村 僕は、もともと科学哲学を東大でやっていた。カントについて卒業論文を書いて、優等賞をもらい文学部総代にさせられて特別研究生に残った。アカデミックな勉強は東大の哲学科で1回済ましているわけです。その後は余力で、社会学の若い助教授たちと研究会をやった。そのころは本屋さんが東大の若い助手なんかを月に1回集めて飯を食わせて、誰かを呼んできて議論させる。朝日新聞に森本哲郎という文章家が出て、彼が中心でそういう研究会を筑摩書房とかでやっていた。社会学の高橋徹(あきら)とか日高六郎が僕を招き入れてくれた。そこへ朝日の森本哲郎が来ていて絶えず学会に刺激を与えて論壇的な動きがあった。

名取 先生は御本の中で、学部の間は学際的でなく、それぞれの専門を身につけて、大学院で初めて学際的なことを、と。

吉村 旧制の大学院に特別研究生が残ったときから、そういう論壇活動というのは横にありましたから。

名取 先生の御本を拝見していますと、今の政策研究大学院大学も、いろいろな分野の方々がいらして



「知」を歩んで、その中の「要」でいつも先生がおられる。埼玉大学のときからそうだったと思うんですね。埼玉大学でそういうふうなシステムを身につけられたのではなく、既に東大時代に。

吉村 そうです。学部を超えたそういう知的な動きがあったんですよ。

名取 先生、御本の中に「哲学を学んだから、こういうふうなところの要(かなめ)の役割を果たせる」とおっしゃっていました。

吉村 それは哲学科で学んだことの1つで、総合的にトータルに物が見える。それから「ラティックス」という根源にさかのぼりながら物を考えるという習慣は哲学科にいたことで身についたんですね。

名取 先生、今、哲学、教養がすごく先細っていますけれども、哲学、教養ってすごく大事なことだと思うのですけれども。

吉村 自分でいろいろな本を読むことに尽きることかな。それで絶えず現代的な問題についての評論を書いてみる。例えば400字詰め30枚ぐらいで物を書くというようにしたいですね。

名取 こちらの卒業式とか来ますと、1つ感じますのは、昔、私が第二期生としてお世話になったときは、中央官庁の人は結構いたのですけれども、最近は余りなくなっていますね。

吉村 いらないね。あのときは中央官庁の官房長あた

CONTENTS

GRIPS恩師インタビュー第1回 吉村融 政策研究大学院大学名誉学長	1
修了生紹介政策の現場から 福島県副知事 鈴木正晃さん	3
修了しても図書館を使いたい！！	4
同窓会・同窓会各支部からのご案内	5
国内同窓会開催/名取会長が瑞宝中綬章を受章されました/	
国内同窓会Newsletterの名称決定/国内同窓会支部を発足しませんか/	

東京消防庁消防学校見学ツアーのご案内/	
旧埼玉大学大学院政策科学研究科の校舎はいま...	
大学からのご案内	6
GRIPS News/GRIPS基金へのご協力のお願ひ/Facebook!!/	
原稿募集のご案内	
編集後記	6

りのところに僕がしょっちゅう行ったりする。そうすると向こうも「大学院に來い」と言ったって「何、勉強？我々が大学院なんか行って何か勉強することがあるか。」と。「そうじゃねえ」と言うので「例えば教えてみる。どんなことを考えてるんだ」というので、人事院の研修所とか各省の課長研修へ、私を呼んでくれたんだね。

名取 そうしますと、GRIPSの将来なんですけれども、いくつか心配なことも出てくるし、例えば国の官庁から、もっと「活きのいい方」に入っていたきたいんですけれども。

吉村 それは中央官庁の信頼を得ないといけな。例えば通産からは学生を派遣してもらった場合、僕らは向こうのために働きましたね。世の中、give & give & give & takeぐらいに考えていれば間違いない。それで中央官庁の信頼をつくっていくことです。そうでないと人事院のプログラムだけで募集しても、いい人はアメリカへ行っちゃう。だからこっちが努力して、足を使う必要がある。のんびり構えていても、お客様は来ないと思うんだよね。

名取 先生、「政策研究院」という組織を立ち上げられておられますけれども。

吉村 もともと「大学院大学」をつくるときに「政策研究院」にしたかった。

でも「どうしても大学院大学でなければだめだ」と文部省は言っていて、篠沢恭介さん（元大蔵次官）なんか「吉村さん、名前に固執していると、時機を失ってしまうから、「政策研究大学院大学」はオフィシャルな名前、外向けには俗称で「政策研究院」っていいばいいのでは。」とか言って、それで始めたのですけれどもね。

名取 文部科学省では、法律にもとづいて仕事を進める「成文主義」が特に強いように思います。ですけど、法律学でも「事情変更の原則」があります。世の中が変わるわけですから、変えるのが役人の仕事なので、どんどん変えていかなければいけないと思います。ところが「政策研究院」を「大学院大学」にしろといわれる。成文主義の最たるもののような気がします。

吉村 そうです。新しいものが一挙にふえることへの抵抗ですね。埼玉のときでも、まず、小さく出発しろと。社会学研究科の中の1専攻ぐらいでやるなら許す。それで実績を踏んで、2講座になり3講座になり、ようやく研究科ができる。

文部科学省で、大学での研究は、どう起こせば推進していけるのかというノウハウの蓄積は、手塚晃研究助成課長の功績が大きい。今の学術政策というのは、笠木三郎審議官と手塚晃課長が長く研究助成課にいて、その時代につくったと思います。そういうのが今なくなっちゃっているんだよ。それは心配ですね。

要するに大学には、昔、基礎科学と言って、役に立つか立たないかわからないようなものでも「苗床」があったわけです。国立大学への講座費を通じてです。そこでいい芽が出てきたときにプロジェクト型の科研費をば

んとつけると。競争的資金を積んで。それで育っていくんですね。ところが、「初めから競争的資金でもっと競わせればいいものができる」という意見がある。しかし、初めから競争的資金なんかで物を育てるのはむずかしい。「苗床」があつてびゅびゅつと芽が出たときに、いち早くそれを見つけてそれをプログラム化する。だから、かつては、お金を出すほうにもプロが育っていたんですよ。

名取 最後に伺いたいのは、先生は「にじみ出るような教養をつけることが必要だ。最近はどうも学生たちにそれがない」と憂いておられます。GRIPSとして、どういうことをしたらもう少し教養がつかますか。

吉村 このごろ1年で帰るから、単位を取って論文を書いて精いっぱいになっちゃう。何といひかな、デュアルの仕組みにしておいたらい。一方では、役所への報告書は、そんなに独創的じゃなくてもいい。アナリスなどの手法を使える能力がつけばいい。他方では、自由に考えてつくってみなさいよ。例えば、自分の役所の政策でのサクセスストーリーを、いる間にまとめてごらんさいと。派遣で来ている若い教授と一緒にできたらいいと思います。それから、失敗例も日本は嫌がるけれども、大学院でやってごらんさい、と。それをやると反発を食らうかもしれないけれども、「そいつも、おもしろいじゃないか」といつてくれる人が省庁の上の方に必ずいて、それが日本の官僚の本当の強さだったのではないかと。

名取 おっしゃるとおりです。私たちも2年やらせていただいたので随分論文を書くのがおもしろくて、本当にあの時代は最高でした。

吉村 手づくりで育てていたような気がするな。

名取 ものすごく育てていただきました。当時驚きましたが、先生の哲学で最初に素粒子が出てくるんですよ。本当に楽しかったです。科学史ってこうなんだって。あのときの楽しさを知っておりますと、プログラムをこなして帰るだけでなく「プラスアルファ」があったほうがいいのでは、なんて思ったりします。きょうは、とても楽しかったです。どうぞお体を大事にしてくださいませ。どうもありがとうございました。

（インタビューは、2018年10月3日、GRIPS内の吉村名誉学長のオフィスで行われ、インタビュー録音をもとに、国内同窓会幹事高木昭美さん（GSPS1988年修了）が原稿にしてくださいました。）

—— 吉村先生の著書、『政策研究の地平へ GRIPSの挑戦』（2008年6月東洋経済リサーチセンター）は、約10年前、政策研究大学院大学創設10周年の節目に発行されました。政策志向の大学院のみの本学がどのようにして誕生したのか、GSPSそしてGRIPSの改革の歴史と実績が記されています。吉村初代学長の情熱、行動力、そしてビジョンが、いかに周りを動かし、革新を実現してきたか、ぜひ皆様にご一読いただきたい本です。Amazon、各書店等でご購入いただけます。各図書館にも所蔵されています。



修了生紹介 政策の現場から1

福島復興の「切り札」―福島イノベーション・コースト構想―

福島県副知事 鈴木正晃さん

本学の修了生の皆さんは、多様な政策の場で活躍されています。会報では、皆様の業務の参考やネットワーキングのきっかけになればとの思いから、多様な分野で活躍する修了生の皆様をご紹介させていただくこととしました。

記念すべき第1回目は、福島県副知事、鈴木正晃(すずきまさあき)さん(GSPS1988年修了)をご紹介します。

鈴木さんは、震災後、原子力損害対策担当理事、総務部長を経て、副知事に就任、まさに復興

の最前線で活躍されています。現在は、一般財団法人福島イノベーション・コースト構想推進機構理事を兼任され、福島県が進める新たな取り組み、福島イノベーション・コースト構想の責任者として、ご活躍されています。



私は、昭和61年に福島県の研修事業で埼玉大学大学院に派遣されました。政策科学研究科の第10期生として、吉村研究科長を始めとする素晴らしい先生方の御指導の下、政策研究に

打ち込み、他県等から派遣された仲間と共に、2年間、本当に充実した大学院生活を送らせていただきました。

まもなく、東日本大震災と原発事故から8年が経過いたします。この間、県民の懸命な御努力と国内外からの温かい御支援により、福島復興・再生は着実に進んできたところであり、この場をお借りして心から感謝を申し上げます。

私は現在、福島県副知事と一般財団法人福島イノベーション・コースト構想推進機構理事という職に就いております。福島イノベーション・コースト(国際研究産業都市)構想は、東日本大震災及び原子力災害によって失われた浜通り地域等の産業を回復するため、地域の新たな産業基盤の構築を目指し、平成26年6月に始動したプロジェクトであり、平成29年5月の福島復興再生特別措置法改正により、国家プロジェクトとして位置付けられました。

これを受けて、福島県では、構想推進の中核的機関として平成29年7月に一般財団法人福島イノベーション・コースト構想推進機構を設立し、構想の具

体化を進めております。

この約8年で、原子力災害により避難を指示された地域では、避難指示の解除が進みましたが、震災前に約15万人あった人口が約6万人にまで減少するだけでなく、地域の産業基盤が喪失し、多くの雇用が失われました。

このような中、地域の活力を取り戻し、地域経済の復興を実現していくためには、生活環境の整備を進めるとともに、地域の産業・生業を再生するため、新たな産業を創出し、集積していくことが必要です。現在、福島イノベーション・コースト構想推進機構では、構想の実現に向け、この地域で生まれた新たな産業の集積や各拠点施設をいかした取組を進めております。拠点等を結ぶ交通ネットワーク形成に向けた実証事業を始め、来訪企業に対応するためのワンストップ窓口を担うコンシェルジュの配置、シンポジウムの開催などの総合的な情報発信はもとより、構

想を担う高度な人材の長期的な教育・育成の基盤を構築するため、浜通り地域等における大学等の教育研究活動の支援など知の集積に取り組んでおります。

また、地元企業に幅広く参加いただきながら、国内外の企業、研究機関等の連携やビジネスマッチング等を進め、各産業分野における裾野を拡大するなど、地域経済の再生を図るとともに、福島県全体の産業復興につなげる取組を進めております。

具体的には、福島復興の前提となる福島第一原発の廃炉作業が、安全・着実に進められるための必要なロボット技術の開発を始め、多岐にわたる分野の研究開発が周辺地域で実施されることになります。

廃炉に必要な研究開発拠点となる「樹葉遠隔技術開発センター」、「廃炉国際共同研究センター」、「大熊分析・研究センター」が整備された

福島イノベーション・コースト構想

～構想実現に向けた重点的取組～



ほか、世界に類を見ないロボットの一大研究開発拠点となる「福島ロボットテストフィールド」や再生可能エネルギーを利用した世界最大級となる1万kwの水素製造装置を備えた「福島水素エネルギー研究フィールド」、原子力災害等の記録・教訓を後世に伝える「東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点施設」の整備が進められており、2020年度までに順次オープンしていく予定です。

また、スマートコミュニティの構築や浮体式洋上風力発電の実証研究、太陽光等の再生可能エネルギーの導入拡大、水素社会モデル構築等の「エネルギー分野」の取組、ロボット技術や環境制御システム等の先端技術を取り入れた先端的な「農林水産分野」の取組、バッテリーや石炭灰などの先端的なリサイクル技術開発による「環境・リサイクル分野」の取組など、新たな産業の創出を進めております。

こうした拠点整備の進展により、数多くの研究者や技術者等がこの地域で生活し、新技術や新産業のけん引役となり、地域の復興を支えることも期待されます。

最近の地域づくりの事例研究によれば、市町村の人口増加にとって重要な要素は、地方中心都市までの通勤時間とされ、条件不利地域であっても産業振興や医療・福祉の充実などに重点的な投資を行うことが、人口動態の改善や所得の向上に効果があるなど、特に近隣都市との連携を前提とした地域づくりが重要であるとされております。

そこで、被災した浜通り地域等では、震災以降、官民一体となって、常磐自動車道(インターチェンジの整備を含む)、国道6号、ふくしま復興再生道路、JR常磐線、バス路線等の交通インフラや商業施設、医療機関など生活インフラの復旧・整備を進めるとともに、廃炉やロボット、エネルギー、農林水産分野等の様々なプロジェクトから構成される福島イノベーション・コースト構想に基づく、新たな研究・産業の拠点をこ

一般財団法人 福島イノベーション・コースト構想推進機構

- 一般財団法人 福島イノベーション・コースト構想推進機構は、本構想推進の中核的な機関として平成29年7月25日に福島県が設立した法人です。
- 福島復興再生特別措置法に基づく「重点推進計画」においても、法人を構想推進の主要な実施主体として位置付け、国家プロジェクトである本構想の具体化を進めてまいります。

産業集積・ビジネスマッチング

実用化開発や事業化の支援、ビジネスマッチングイベントの開催など、産業集積を促進する取組を実施。



福島イノベーション・コースト推進機構



事業化に向けたコンサルティング等

教育・人材育成

浜通り地域等での大学等の教育研究活動や、初等中等教育のイノベーション人材育成を支援。



福島県立大学と福島県立大学附属高等学校との連携

交流人口の拡大

拠点の活用や地域の新たな魅力創造など、交流人口の拡大に向けた取組を実施。



福島県立大学と福島県立大学附属高等学校との連携

公の施設の管理運営

福島県が整備する2つの拠点について、県と一体となって管理・運営等の準備を進進。



福島県立大学と福島県立大学附属高等学校との連携

情報発信

シンポジウムの開催など、総合的な情報発信を推進。



福島県立大学と福島県立大学附属高等学校との連携

の地域全体で戦略的に整備し、新産業の集積や交流人口の拡大につなげていく取組を進めております。

福島イノベーション・コースト構想は、福島復興の「切り札」です。これからも未曾有の災害を経験した福島県だからこそ得られる知見やイノベーションを追求しながら、産学官が連携して、日本、さらには、世界に先駆けた取組に果敢に挑戦してまいります。

修了生の皆様方におかれましても、福島県の取組に対する御理解・御支援のほどよろしくお

願い申し上げます。

(注釈) 一般財団法人福島イノベーション・コースト構想推進機構は平成31年1月1日に公益財団法人の認定を受けました。

■福島県イノベーション構想推進ウェブページ



■一般財団法人福島イノベーション・コースト構想推進機構ウェブサイト



今回の記事作成にあたっては、鈴木さん、福島県、一般財団法人福島イノベーション構想推進機構の皆様大変お世話になり、ありがとうございました。本構想は、同じく修了生である福島県企画調整部避難地域復興局の古尾谷直樹(ふるおやなおき)さん(GRIPS地域政策プログラム2006年修了)もご担当されています。古尾谷さんは、本構想推進にあたり、国内外の多くの方に訪れていただき、交流人口の拡大に繋がりたいとの考えから、機構のご担当者様と一緒に本学を訪問され、留学生の見学旅行等について意見交換をさせていただき、本学の現役留学生が福島県を訪問させていただくことになりました。皆様も何かありましたら、お気軽にご連絡ください。なお、本連載「修了生紹介 政策の現場から」に登場くださる修了生の方も募集しています。ご担当の事業等についてご紹介いただける方、ご連絡をお待ちしております。

修了しても図書館を使いたい！！

というご意見を多数の皆様から頂戴しています。が、GRIPSの図書館は、すでに修了生の皆様にもご利用いただけるようになっています。まずは「図書館利用カード」を申請ください。

●利用いただける方●

元教職員及び修了生で、図書館利用カードをお持ちの方。

●図書館利用時間●

月～金: 9:00-21:00
土: 10:30 - 17:00

●貸出冊数・期間●

20冊・1ヶ月

●図書館利用カード申請方法●

必要書類・・・住所記載の身分証(保険証、免許証等)

受付時間・・・平日 9:00-17:00

平日17:00以降および土曜日に申請されたい場合は、修了確認の都合上、受付時間内にメールまたは電話で事前にご連絡ください。

有効期限・・・1年間。住所等の変更の有無を確認した上で、更新できます。

カードは図書館カウンターにて発行可能ですが、事前にお越しいただける日を予めご連絡いただけるとお手続きがスムーズです。

詳細は、GRIPS図書館ウェブサイトをご覧ください。



同窓会・同窓会各支部からのご案内

ご案内 | 国内同窓会開催

今年度も国内同窓会を開催いたします。三連休の初日を予定しております。遠方の方もぜひお誘い合わせのうえ、ご参加ください。

日時:2019年2月9日(土)15時00分～受付開始14時00分～

会場:政策研究大学院大学

プログラム:第一部報告会、第二部懇親会

参加費:4,000円

参加申込:2019年1月28日までに、

alumni@grips.ac.jp、または03-6439-6047宛、

■お名前

■ご連絡先(メールアドレス及び携帯電話番号)

■お役職

■修了年(お分かりになれば)

■全て参加/第一部のみ参加/第二部のみ参加

をご連絡ください。

報告会のテーマ等の詳細は、決定次第Facebookでご案内いたします。この機会にFacebookのご登録、お願いします。

<https://www.facebook.com/groups/GRIPSAumni/>

NEWS | 名取会長が瑞宝中綬章を受章されました

平成30年度秋の叙勲で、名取はにわ国内同窓会会長が、永年にわたる内閣府行政事務功勞により、瑞宝中綬章を受章されました。おめでとうございます！

NEWS | 国内同窓会Newsletterの名称決定

国内同窓会のNewsletterの正式名称は、先の準備号で会員の皆様に公募しましたが、残念ながら応募がなく、会報の編集委員会におきまして、慎重に検討した結果、「GRIPS国内同窓会報」と決定いたしました。今後は、この名称で発行しますので、会員の皆様、どうかご了解ください。

ご案内 | 国内同窓会支部を発足しませんか

国内同窓会は、地方自治体、中央省庁、企業等の各派遣元やプログラム(コース)など、様々な単位で同窓会支部を作っていただくことができます。すでにいくつかの支部を発足していただいております。2018年12月までに14の支部が設立されています(以下設立順:インフラ政策、福島県、広島県・広島市、東京消防庁、埼玉県、千葉県、鳥取県・鳥取市、愛知県・豊田市、岩手県、兵庫県、熊本県、高知県、さいたま市、横浜市)。

今後、修了生による懇親会の予定があり、各組織、地域で新たに同窓会支部を発足させたいのご希望のある方は、ぜひ、以下の担当までご連絡ください。

本学より、横道理事・副学長や教職員、同窓会担当が出向いて、支部発足のお手伝いをいたします。

■本件担当:徳永涼子、野口優子、カリン・ヒレン

■連絡先:alumni@grips.ac.jp 03-6439-6047

東京消防庁支部発！

東京消防庁消防学校見学ツアーのご案内

東京消防庁では、昨年度同窓会支部を発足されています。国内同窓会の副会長も務める支部会長の柏木修一さん(GSPS1992年修了、現東京消防庁総務部長)のご尽力により、修了生の皆様にまたとないイベントをご提供できることになりました。

東京消防庁支部では、修了生及び現役生の方を対象に、東京消防庁消防学校見学ツアーを企画していただきました。このツアーでは、一般の方は通常見ることが出来ない消防学校での消防訓練をご覧いただける予定です。また、福島第一原発に派遣されたレスキュー隊、消防車両の整備基地、研究施設が併設されており、こちらも併せてご見学いただけます。訓練の様子をご覧いただくことから、平日の開催となりますが、皆様どうぞ奮ってご参加ください。

日時:2019年3月1日(金)15時00分～17時00分 集合時間14時45分

場所:東京消防庁消防学校

(東京都渋谷区西原二丁目51番1号、

京王線幡ヶ谷駅、笹塚駅、千代田線代々木上原駅徒歩10分)

参加申込:2019年2月15日までに、alumni@grips.ac.jp宛、

■お名前、

■ご連絡先(メールアドレス及び携帯電話番号)、

■お役職、

■修了年(お分かりになれば)

をご連絡ください。

旧埼玉大学大学院政策科学研究科の校舎はいま...

国内同窓会で幹事を務めてくださっている小谷和弘さん(GSPS1988年修了)が、懐かしの学び舎を訪ねてくださいました。

旧政策科学研究科の建物は、落ち葉をかき集め焼き芋を留学生に紹介したあの木々に囲まれ昔のままです。ただ、建物の東側の空き地は大駐輪場となっていました。

現在は主に埼玉大学オープンイノベーションセンターとして使われています。このセンターは、産学官連携におけるリエゾンオフィスとしての機能で企業等における技術的課題の解決、共同研究実施支援、埼玉大学の知的財産の紹介・活用に向けた技術移転等

を行うとともにこれらの活動を通じて、地域におけるオープンイノベーションの推進に貢献することを目指しているとのこと。

■また、他にも環境科学研究センター、社会調査研究センター、日本語教育センターなどに使われていますが、昔のように教室としての使用はなく、学生が出入りする賑やかさはないようです。

(写真・文:小谷和弘)



大学からのご案内

GRIPS NEWS 会報では一部抜粋して掲載しております。大学公式ウェブサイトには多くのニュースが掲載されています。ぜひご覧ください。

2018年3月 春季学位記授与式を挙行

3月27日、GRIPS創設以来18回目の春季学位記授与式を挙行、75名に学位が授与されました。本学経営協議会委員、消費者庁顧問、板東久美子様からご祝辞を賜り、公共政策プログラム



地域振興・金融コース東祐大 さん(株式会社静岡銀行)が、「職場を離れ、異なる立場の仲間とともに学んだ貴重な1年間。この経験を糧に業務に臨みたい。」と抱負を述べました。

2018年8月 GRIPS同窓会 in Indonesia

8月4日、インドネシア-日本国交60周年を記念し、インドネシア・ジャカルタにて同窓会を開催。大学から田中学長、横道先生、増山先生をはじめとする多数の教職員が参加、インドネシア各地から多数の修了生が



駆けつけてくれました。Sri Mulyani Indrawati 財務大臣、Ginandjar Kartasasmita本学シニアフェロー/International Advisory Committee委員、石井在インドネシア日本大使がご参加くださり、大変な盛会となりました。本会において正式に同窓会組織が発足され、会長にAnwar Sanusiさん(2007年博士課程Public Policy Program修了)、幹事役に今回の企画の中心Arif Hidayatさん(2005年YLP修了)が選出されました。

2018年11月 2018年度秋季大山杯開催

11月25日、大山先生のお名前を冠したソフトボール大会「大山杯」が開催されました。2005年度より開催されている伝統の一戦。大山先生、増山先生擁する教職員チームと、若き現役消防士擁する学生チーム、接戦のすえ、6対7で学生チームが勝利しました。修了生チームの参戦、お待ちしております！



▶▶ GRIPS基金へのご協力をお願い

GRIPSには、ミッドキャリアの行政官を中心に、日本を含む世界63の国と地域から学生が集まっており、世界で活躍できる指導者・政策プロフェッショナルの養成に努めています。皆様から募った基金を奨学金として、未来のリーダーを支援することにより、日本及び世界の持続的発展に繋がること、また、研究資金として、本学の政策研究活動を支えることにより、この分野での世界における本学ひいては日本のプレゼンスの向上に繋がることが期待されます。

基金へのご寄付は、銀行振込・クレジットカード決済にて受け付けております。ぜひ、皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。



Facebook!!

■ GRIPS公式Facebook
<https://www.facebook.com/grips.tokyo/>

■ GRIPS/GSPS Alumni Association
<https://www.facebook.com/groups/GRIPSalumni/>

国内同窓会報に掲載する原稿を募集します

同窓会では、今後、国内同窓会の各支部や各地域の会合の開催予定のご案内、開催結果の報告、会員の近況などを国内同窓会報に掲載したいと思っています。修了生紹介「政策の現場から」に登場くださる方も自薦他薦問わず募集中です。寄稿、行事のお知らせや写真など、alumni@grips.ac.jpまでお送りください。

これまで同窓会を担当しておりました久保彰子が任期満了のため退職し、後任として、徳永涼子(とくながりょうこ)が着任いたしました。同窓会と大学のつなぎ役として精一杯努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

■■ 編集後記 ■■■

国内同窓会報第一号を発行することができました。関係者の方々に厚く御礼申し上げます。特に教育支援課の皆様方には企画案、グラの作成、印刷など一からご協力をいただき重ねて御礼申し上げます。さて、本会報は生まれたばかりで構成や内容など暗中模索の状況であります。つきましては皆様方のご協力・ご意見がニューズレターをブラッシュアップにする唯一の栄養素かと、同窓会諸氏のご協力をよろしくお願いいたします。私事ですが、本年8月でフルタイムの仕事

から離れました。75歳までは動的な余暇(ジョギング、ゴルフ、スキー、旅行、家庭菜園、ボランティアなど)、75歳を過ぎたら静的な余暇(模型作り、革工芸、映画、囲碁、読書など)と考え、今までの仕事や通勤に費やしていた時間を我が物にできると勇んでいましたが、趣味や余暇を取り入れた一日の生活のリズムや週や月のサイクルなどが定まらず四苦八苦しております。隠居(?)生活をどう組み立てていくのか、悩みの尽きない日々が続きます。(小谷記)